



全文を読む: [10.1787/9789264190658-en](https://doi.org/10.1787/9789264190658-en)

より良い学習のためのシナジー: 評価と査定に関する国際的展望

日本語要約

- 政府と教育政策立案者は学生、教師、学校指導者、学校および教育制度の評価と査定に一層注力している。こうしたものは学生の学習到達度をよりよく理解し、教育成果について両親や社会全般に情報を提供し、学校、学校の指導力および教育実践方法を改善するためのツールとして利用される。
- 査定と評価の結果は学校制度がどの程度うまく機能しているかを明らかにし、フィードバックを提供するために不可欠になりつつあるが、これはすべて学生の成績向上を援助するためのものである。
- この報告書は OECD 加盟国 28 カ国の経験を比較し、異なるアプローチの長所と短所を分析し、教育の質、公平さおよび効率性の向上のために評価と査定を利用することについての政策上のアドバイスを提供する。同報告書は主要な調査『OECD Review on Evaluation and Assessment Frameworks for Improving School Outcomes』を参考にした。

共通のテーマ

評価と査定の利用を推進する要因には以下が含まれる。

- ・ 経済および社会的課題に対応するための教育の有効性、公平さおよび質に対する要求の高まり
- ・ 学校の自律性強化への教育の潮流が学校の教育成果を監視する必要性をとおっている
- ・ 情報技術の高度化により、大規模で個別化された学生の評価とデータの管理と共有化が可能になったこと
- ・ 証拠に基づいた意思決定のための評価結果への依存の高まり

評価と査定の現在の状況と利用は加盟国間で大きく異なるが、その共通のテーマは以下の通りである。

評価は拡大し、より多様化しつつある

OECD 加盟国の大半は現在、評価と査定が戦略の中心的役割を果たすと考え、その利用を拡大している。また、これらの諸国はより包括的なアプローチを取っている。すなわち、以前は評価と査定は主に学生の評価に重点を置いて行われたが、今では外部の学校評価、教師と学校指導者の評価・査定および教育成果データの利用が増加し、その重点領域は広がっている。

指標の重要性は高まりつつある

教育制度は学生の成績を測定することをより重視するようになっており、学校や地域間の一定期間における教育成果の比較を可能にしている。大半の諸国は現在教育に関する全国データベースを保持し、教育の統計と指標を発表する。国際的ベンチマーキングも一段と一般化し、全国教育データベースの情報提供源となっている。

結果は様々な方法で利用される

結果は優れた教育成果を達成した学校や改善すべき点を特定するのに利用されている。また、政策立案者、学校指導者および教師に責任を持たせるためにも利用されている。例えば、多くの加盟国は現在、両親、政府官僚およびメディアなどが利用できるように全国学校成績一覧表を発表している。

教育水準への依存の高まり

多くの加盟国は現在、学習過程の異なる段階で学生が知るべきことやできるべきことに対して教育水準を設定している。これにより学生がこうした水準を満たしているかどうかを知るための監視が推進された。

課題と方向性

評価と査定の伝統とアプローチは各国間で異なる。とはいえ、いくつかの明確な政策上の優先事項があり、それには以下が含まれる。

全体観的アプローチ

潜在的な能力を完全に実現するには、評価と査定の様々な構成要素が統一性のある全体を形成すべきである。これは構成要素間の相乗効果作用を生み出し、重複を防ぎ、目的の矛盾を防ぐ。

評価と査定を教育目標と適合させる

評価と査定は教育目標と学生の学習目的に役立ち、これらを推進すべきである。これには教育目標の本質となる原則との適合、目的に合う評価と査定の考案、そして学校代行者による教育目標の明確な理解の確保などの側面が伴う。

授業方法改善への重点的取り組み

評価と査定の要点は授業方法と学習成果を改善することである。この点を念頭に置くと、あらゆるタイプの評価と査定が教育的価値を持ち、それに参加する人々、特に学生と教師にとって実用的な恩恵があるはずである。

歪みを防止する

評価と査定システムはアカウントビリティを提供する役割により、学生の指導方法と授業内容をゆがめることがある。例えば、教師の評価が主に標準化された学生のテスト結果に基づいて行われる場合、彼らはテストの対象となる技能だけを重視し、学生の「より広範な能力開発・教育ニーズ」には大して注意を払わず「テストのために指導する」かもしれない。学校と教師の教育成果を評価するためにより広範な種類のアプローチを使うなど、こうした望ましくない付随現象を最小限に抑えることが重要である。

学生を中心に置く

評価と査定の根本的な目的は学生の学習到達度を向上させることであるため、学生が中心に置かれるべきである。彼らは勉強に没頭し、(生涯学習の主要なスキルでもある)進捗度の自己評価ができるようにすべきである。批評的思考、ソーシャルスキル、勉強への没頭、そして全体的な充足感など、より広範な学習成果を監視することも大切である。こうしたものは容易には測定できないが、それは学生の学習成果を形成する様々な要因にも当てはまる。したがって教育成果の評価基準は量的および質的データならびに高品質の分析を活用した広範なものでなければならない。

全レベルで能力を開発

効果的な評価と査定の枠組みを創るためには教育制度のあらゆるレベルで能力を開発する必要がある。例えば、形成的評価利用に関する教師の研修、学校職員のデータ管理スキルの習得、事務処理に忙殺されがちな校長の教育者としてのリーダーシップスキル強化を行う必要があるかもしれない。また、評価と査定活動を補助する知識基盤、ツールおよびガイドラインを開発するためには集中化された取り組みが必要となるかもしれない。

地元のニーズを管理する

評価と査定の枠組みは中核的な教育目標の一貫した達成と、地域、地区および学校の特殊なニーズへの適合の間で適正なバランスを見つけなければならない。これは全国的なパラメーターを定めながらも地元のニーズを満たすための柔軟性のあるアプローチをよしとすることを含む。

うまく考案し、コンセンサスを構築する

評価と査定の枠組みをうまく考案するためには情報に基づいた政策診断と最良実践方法を活用すべきだが、それにはテストケースと実験作業が必要となるかもしれない。導入を成功させるためには多大な努力を払ってすべての関係者のコンセンサスを構築する必要があるが、彼らはその根本的理由と有益性を理解すればより変化を受け入れやすくなるだろう。

© OECD

本要約は OECD の公式翻訳ではありません。

本要約の転載は、OECD の著作権と原書名を明記することを条件に許可されます。

多言語版要約は、英語とフランス語で発表された OECD 出版物の抄録を翻訳したものです。

OECD オンラインブックショップから無料で入手できます。 www.oecd.org/bookshop

お問い合わせは OECD 広報局著作権・翻訳部にお願いいたします。 rights@oecd.org fax: +33 (0)1 45 24 99 30.

OECD Rights and Translation unit (PAC)

2 rue André-Pascal, 75116

Paris, France

Visit our website www.oecd.org/rights



OECD iLibrary で英語版全文を読む!

© OECD (2013), *Synergies for Better Learning: An International Perspective on Evaluation and Assessment*, OECD Publishing.

doi: 10.1787/9789264190658-en